

## 記念事業の展開



20周年事業部長 三木 秀隆

## 雲南省少数民族に関する活動のはじまりと展開

雲南省少数民族支援活動は、当クラブに中国蘇州市高新区の政府役人、丁勇軍(てい・ゆうぐん)氏が在籍していたことがきっかけでした。雲南省の少数民族出身である丁氏は中国における少数民族の問題に以前から関心を寄せていて、彼から少数民族の義務教育の実情などをよく聞いていました。その後、NPO法人日本・雲南聯誼協会の初鹿野恵蘭理事長をご紹介いただいて、さらに詳しい様子を聞き、何かお手伝いできないかと考えるようになりました。2008年1月4日、初鹿野理事長にご同行いただき、クラブ会員数名と共に中国雲南省にある老木壩小学校を訪問。老朽化した校舎や学習環境、更に地域の経済的な厳しさなどをつぶさに視察してきました。しかし当時はまだクラブとしての関わりは難しいと感じました。

2008年2月、次年度会長としてPETSに参加した私は「夢をかたちに」という次年度のRIテーマに出会い、この雲南省プロジェクト実現の思いを改めて強くしました。このRIテーマを東京たまがわロータリー・クラブの会員に説明し徐々に国際奉仕活動として位置づけられてまいりました。更に地域の方々からご理解ご協力を得ていくつかの事業を行うこととし、狛江市内小・中学校での課外授業、特別授業、及び狛江・雲南省両小学校のフレンドシップ協定締結の橋渡し、新しく建て直される老木壩小学校への備品寄贈などの準備が進みました。そして仕上げとして新しく建て直された老木壩小学校の落成式に合わせて2009年4月に第3回目の雲南省訪問を行ないました。この訪問には多くのクラブ会員が参加し、体験を共有することとなったのです。その後これらの活動を一步進め、次世代を担う日本と中国の若い人たちの集いをクラブ創立20周年の記念事業として企画、2009年8月に雲南省の少数民族女子高校生と狛江の小・中・高校生の交流会を狛江市で実施いたしました。以上の事業によって私達は国や世代、立場を超えた多くの方々で体験を共有し、少しずつではありますがお互いを知り合い理解しあうことができたのではないかと思います。最後にこの事業を多くの方々にご理解いただければ幸いです。

## 主な事業の日程

- |                |  |
|----------------|--|
| 2008年 1月 4日～9日 | 有志による現地訪問(4名)  |
| 4月17日～20日      | 実態把握のための現地実踏(10名)  |
| 8月20日          | 例会にてNPO法人日本・雲南聯誼協会の初鹿野恵蘭理事長が卓話<br>狛江市立第一中学校・狛江市立第五小学校の校長先生 出席      |
| 11月27日         | 狛江市立第五小学校にて課外授業 講演者:NPO法人日本・雲南聯誼協会 七田様<br>対象:世界を知ろうクラブ4・5・6年生(18名) |
| 2009年 3月 5日    | 狛江市立第一中学校にて特別授業 講演者:初鹿野恵蘭理事長<br>対象:2年生(83名)                        |
| 4月 7日          | 狛江市立和泉小学校にてフレンドシップ協定書に調印   |
| 17日～20日        | 雲南省の老木壩小学校落成式に合わせて現地訪問(10名)  |
| 18日            | 狛江市立和泉小学校と老木壩小学校のフレンドシップ協定締結<br>机・椅子・ベッドを寄贈<br>春蕾会訪問(里親支援)         |
| 5月18日          | 狛江市立和泉小学校にフレンドシップ協定書及び贈り物(刺繍絵)伝達                                   |
| 8月20日～24日      | 雲南省の高校生3名及び付き添いの先生等2名を日本に招待(20周年記念事業)                              |
| 21日            | 都立狛江高等学校訪問、狛江市長表敬訪問  |
| 22日            | 狛江市内の小・中・高校生との交流会 例会・懇親会   |

## (現地実踏の日程と内容紹介)

2008年1月と4月、私たち東京たまたがわロータリー・クラブの会員は雲南省武定県老木壩小学校を訪れ、中国の少数民族の小学校をつぶさに見てまいりました。

厳しい環境の中にあっても目を輝かせて学んでいる子どもたちのために、私たちはロータリー財団地区補助金を活用して援助することになりました。



■ 旧老木壩小学校全景



■ 第1回 視察 (地球儀プレゼント)



■ 第2回 視察 (授業参観)



■ 旧老木壩小学校



■ 旧教室内勉強風景



■ 旧寄宿舎

## 泊江市の小・中学校に於いて少数民族について課外授業、特別授業の実施



■ 地図で雲南省所在地の説明



■ 泊江市立第五小学校での課外授業



■ 泊江市立第一中学校での特別授業

## 中国雲南省老木壩小学校落成式に参列

2009年4月18日(土)

2009年4月18日、三木会長、山根会長エレクトをはじめ、会員10名は雲南省武定県にある老木壩小学校落成式に参列しました。この小学校は老朽化のため、建て直すべく雲南省教育局が立案し、その一部建設費用をNPO法人日本・雲南聯誼協会が支援し完成したものです。小学校には雲南省少数民族のイ族、リス族、タイ族などの生徒124名が学んでいます。東京たまがわロータリー・クラブは識字率向上に繋がる事業としてこの小学校に机、椅子そして寄宿舎用のベッドを寄贈しました。又、狛江市内の小学校とのフレンドシップ協定を仲立ちしました。



■ 雲南省老木壩小学校の熱烈歓迎落成式



■ 机・椅子・ベッド寄贈目録



■ 和泉小学校とのフレンドシップ協定



■ 和泉小から老木壩小へ絵のプレゼント



■ 老木壩小から和泉小へ刺繍のプレゼント



■ 落成式式場に松葉の絨毯が歓迎の印



■ 新しい机と椅子で勉強が楽しそう



■ 新しいベッドで快眠、でも2段ベッドを5人で使用



■ 落成式、まだかな～



■ 日本からのお土産に子どもたち、大喜び



■ 壊れた椅子を、会員が持参の工具で修理

2009年8月21日(金)

### 雲南省の高校生3名、他2名を日本に招待しました

雲南省少数民族への奉仕活動として、私達は次世代を担う日本と中国の若い人たちの交流を企画しました。雲南省山奥の少数民族出身で、厳しい環境の中から努力して昆明市女子中・高等学校への入学を果たし、将来の夢を胸に勉学に励む女子高校生3名と付き添いの先生・政府担当者を2009年8月20日から24日まで日本に招待いたしました。21日には、狛江高校訪問、市長表敬訪問、22日には狛江市内の小・中・高校生との交流会を行いました。2日間ですっかり親しくなった高校生達の、別れを惜しむ光景が今でも印象深く思い出されます。彼女達が今回の日本訪問で何を感じ、学んだかはよく分かりませんが、私達と共に過ごしたこの数日間の体験は彼女達の将来の糧となり、日本と中国を結ぶ強い絆の1本になったものと信じております。



■ 少数民族楽器、独特の笛の音色に感激



■ 都立狛江高校を訪問



■ 琴の音色に魅せられて



■ けん玉遊びに無我夢中



■ 満面笑みの日中親善卓球大会



■ 狛江市矢野市長、木村教育長と記念撮影

## 日・中、学生の文化交流会(20周年記念事業)



■ 来日の感想を述べる雷 会蘭さん



■ 来日の5人を囲んで記念撮影



■ 昼食時間もお話に花が咲きました

### 2009年8月22日(日) 於 JAマインズ狛江3階

#### ・開会(10:00)

- ・来賓ご挨拶
- ・来訪先生方のご挨拶  
雲南省婦人連合協会 児童少年基金秘書長 方 敏様  
昆明中・高校 副校長 林 昆玉様
- ・来訪高校生の自己紹介  
賀 金菊さん(リス族)  
呉 仙さん(ハニ族)  
雷 会蘭さん(タイ族)
- ・記念撮影(来賓と子どもたち)

#### ・昼食(11:25)

\*インターネットで今回の事業を知った雲南省出身の  
在日学生さんからのお手紙紹介

#### ・テーブル毎に懇談(11:30)

雲南省の高校生1名と日本の小・中・高校生約10名、  
それに米山記念奨学生の通訳2名が円卓を囲み、  
自由に意見交換を行いました。

#### ・質問コーナー(12:18)

Q(日)、民族衣装は暑くありませんか?

A(中)、ご配慮ありがとうございます。確かに暑いです。  
でもそのあつさは私の心の熱さと、空気の暑さで  
その二つのあつさを十分に感じています。

Q(中)、どうして私達を援助しようと思ったのですか?

A(日)、鋭い質問ですね。機会があつて現地へ行った時、  
子どもたちの様子を見ると目を輝かせて勉強していた。  
その一生懸命さに打たれ、何か協力できることを  
しなければならぬと思いました。

#### ・狛江市立第一中学校ブラスバンド演奏(13:10)

#### ・雲南省高校生による踊り(13:30)

(会えてうれしかった気持ちを踊りで表してくれました。)

#### ・狛江の生徒による一輪車・縄跳びの演技

#### ・閉会(14:00)



■ 笛の音にあわせて少数民族の踊りを披露



■ 雷 会蘭さん(タイ族)



■ 賀 金菊さん(リス族)



■ 呉 仙さん(ハニ族)



■ 狛江第一中学校の生徒による歓迎演奏



■ 色とりどりの民族衣装でも友愛の心はひとつ



■ 遙々やって来ました、文化交流親善大使

## 移動例会&夜の懇親会



■ 初めての浴衣姿にご満悦



■ プロのお師匠さんに手ほどき受けての踊り



■ 山根会長と方敏さんのツーショット



■ 20周年記念事業の通訳でお世話になった米山記念奨学生の皆さんも大集合



■ 美味しい料理にほっぺたが落ちそう



■ 副校長、林 昆玉先生から感謝の言葉

### 今回の通訳は米山記念奨学生の皆さんです

(財)米山記念奨学会は日本のロータリーが行っている我が国最大の奨学金制度です。20周年記念事業の準備段階にメールで募集したところ多くの奨学生の方から積極的に応募していただきました。通訳としてご活躍していただく中で、一回り大きな輪が広がるのを感じました。ここに米山記念奨学生、郭麗娟さんの文章をご紹介します。

### 雲南省高校生との交流会

先日、雲南省高校生との交流会に参加できましたことを心より感謝を申し上げます。日本に留学に来て以来、中国の若者と交流する機会がほとんどないため、雲南省の高校生たちと楽しく時間を過ごさせていただきました。交流会に参加して一番印象に残ったのは心の交流です。それは言葉が通じるかどうかと関係ありません。高校生たちは日本語が分からないが、ロータリーの方々の親切さと友好の気持ちを十分感じたと思います。一方、ロータリーの方々にも高校生たちの勉強への意欲、将来の夢、希望なども伝わったはずで、交流は短い時間でしたが、お互いにいい思い出になったと思います。その思い出は雲南省の高校生にとって一生の宝物となるでしょう。その思い出を心に残しながら、自分の夢に向かって頑張っていってほしいです。



■ 20周年記念事業でお世話になりました米山記念奨学生の皆さん

米山記念奨学生 郭麗娟さん